

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

2015年度(平成27年度)学校評価自己評価表

済美中学校区	校番18	福山市立 瀬戸 小学校
--------	------	-------------

I 福山市 めざす子ども像

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

II 中学校区

1 めざす子ども像

《中学校卒業時、生徒につけたい力のイメージ》
 ○生き方を判断するための「基礎学力」を身につける。
 ○かかわり合いながら「伝え合う力」を身につける。
 ○目標に向かって努力し、「やりきる」ことができる児童・生徒を育てる。

2 児童生徒の現状

○教育研究の継続的な取組により一部にはその成果がみられるものの、基礎的・基本的な学力の定着には、依然として厳しい実態がある。とりわけ、思考力や表現力、主体的な学習態度などに課題がみられ、家庭学習の習慣も十分定着しているとはいえない。
 ○元気で活発な反面、人とのかかわりや自分の気持ちや言葉を言葉で伝えることを苦手とするなど、自分自身に自信を持ってない児童・生徒が多くみられる。生活と学習に関する意識・実態調査では、「将来の夢や目標を持っている」などの項目に課題がみられ、自己肯定感や自己実現力を高めることが課題である。また、「学校や社会のルールを守っている」の項目にも課題がみられ、基本的生活習慣の確立や規範意識の高揚を図る必要がある。
 ○欠席日数が30日を越える生徒の割合や、特別な支援を必要とする児童生徒の割合が高い。

3 課題

○基礎的・基本的な学力の定着 ○基本的生活習慣の確立
 ○規範意識の醸成 ○不登校児童生徒の減少

III 自校

1 学校教育目標

自ら考え学び、貢献する子どもの育成

2 経営理念

(1) 中学校区における自校の使命(ミッション)

ふるさと瀬戸町を愛し、地域を元気にする瀬戸っ子を育てる。

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

学校像・活力みなぎる学校 ・安心して過ごせる学校 ・地域とともに歩む学校
子ども像・自ら考え学ぶ子 ・地域社会に貢献する子
教職員像・教育に対する情熱と使命感を持つ教職員 ・明るく元気で支え合う教職員
 ・義務教育9年間を見通し、子どもの進路を保障していく教職員
 ・子どもの良さを引き出す教職員

3 前年度重点目標と達成状況

前年度重点目標	達成状況
1 基礎・基本の学力の定着をさせる。	算数科の全国標準的学力検査で、全国平均以上達成の学級は57.1%だった。未達成の学級全て全国平均にあと一歩に近づいたが、目標を達成させたい。
2 子どもの自己肯定感を高める。	あこがれのリーダーを育て、自信を持たせる取組として給食放送を活用して「こっこり! たまて箱」を行った。下級生のモデルになる行動が増えてきた。

4 本年度重点目標と設定理由

重点目標	設定理由
1 基礎基本の学力の定着をさせる。	基礎基本の学力の定着に課題があり、生徒指導の3機能をいかした授業づくり、家庭学習や補充学習の充実、ふるさと学習に取り組んでいく。
2 子どもの自己肯定感を高める。	自分自身に自信が持てない児童が多い。積極的な生徒指導を通して規範意識を高めるとともに、ふるさと学習に取り組む中で児童の自己肯定感を高揚させる。

5 前年度の学校関係者評価結果を踏まえた改善点

- ・学校・保護者・地域が連携・協力して目標達成に向けた取組を行う。
- ・地域・保護者への積極的な情報発信を行う。
- ・評価項目・指標等の分かりやすさ明確化に取り組む。

※ 評価基準

評価・指標評価	基準	
	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

Ⅳ 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点目標	年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	(最終)評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み に着目)	(最終)指標評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標の達成状況 ◎ 改善方策
確かな学力	2	基礎学力の定着を図る教育活動の推進	★	継続	基礎・基本の学力の定着を図る。		△全国標準診断的学力検査(CDT)の達成率を全国平均以上にする。		
							△国語・算数の単元末テストで達成率85%以上にする。		
							△根拠をあげて述べたり、書いたりすることができる児童を85%以上にする。(児童の肯定的評価)		
							△家庭学習をやりきる児童を85%以上にする。(低学年30分以上、中学年45分以上、高学年60分以上)		
豊かな心	2	豊かな心の育成を図る積極的な生徒指導の推進		継続	規範意識を育成する。		△「自分から進んであいさつができる」児童・「時間いっぱい無言掃除ができる」児童を85%以上にする。		
							▽「友達の良い所を見つけられる」児童(ほめ達人)をふやし、児童の自己肯定感を高める。		
							△学校のきまり(ベル着・ネーム・シャツ入れ)を守ることのできる児童の割合を85%以上にする。		
力量ある教職員	2	中学校区と連携をし、教育の専門性の向上	★	新規	授業力(生徒指導の三機能、言語活動の場を設定)を高め、ふるさと学習を推進する。		△授業改善の視点(生徒指導の三機能、言語活動)に基づいた、授業研修における肯定評価を85%以上にする。		
							▽ふるさと学習の指導計画を作成し、ふくやま子ども「生きる」美術展に出品する。		
市民から信頼される学校	2	開かれた学校づくりの推進		継続	保護者や地域とのつながりを深め、信頼される学校をつくる。		△小中一貫教育の取組や子どもの良さ・頑張り等を取り入れた「学校だより」やホームページの定期的な更新により、「学校の様子がわかる」保護者を85%以上にする。		
							▽地場産物や旬の食材を使った「料理レシピ」を保護者や地域に配布し、お弁当づくりの日を実施して家庭の食生活の向上を図る。		